

特別支援教育ガイド1

新しい学びの創造

～ 幼児編 ～



平成18年3月
奈良県立教育研究所

はじめに

私たちは、親や教員から、障害があるかもしれない、気になる行動がみられる、困っているなど、相談されたときからずっと、親も子も教員も安全で安心な生活を続けられるように、支援させていただいています。

ただ、私たちが相談に応じて悩みをきいたり、具体的な支援の方法を伝えたりすることだけでは、子どもの成長過程において、特別な支援を必要とするときに必要な支援を受けられるような環境を整える、すなわち特別支援教育を推進することには限界があります。子どもを取り巻く人々が理解をし、周りにその理解の輪を広げることによって、子どもは「いつでも、どこでも、だれでも」安心して、安全な暮らしができるようになると考えます。

これまで、県立教育研究所において、自閉症の子どもの幼児教育を通して、この課題解決の研究に取り組んできました。本書は、その取組の一端を幼稚園、保育所等保育に携わる方々だけでなく、保護者や地域の人々にも読んでいただき、理解の輪を広げていけたらと願って、まとめたものです。

本冊子作成にあたって、広陵町立真美ヶ丘第二小学校附属幼稚園、香芝市立下田幼稚園、田原本町立田原本幼稚園の園長先生はじめ保育者の方々には保育の実践と資料を惜しみなく提供していただき、園児とその保護者の方々にもご協力をいただきました。また、兵庫教育大学の井上雅彦助教授には、自閉症の理解と支援の実際について示唆に富んだ助言をいただき、奈良女子大学の浜田寿美男教授には、「ありのままに生きる」ことの意味を学ばせていただきました。ここに改めてお礼を申し上げます。

いつの日か奈良県では、子どもは子ども自身のペースでゆっくりと学び、親は心の余裕をもってありのままを生きる子どもを認め、地域は、「ともに生きる」仲間としてあたたかく見守る、そんな街になることを祈ってやみません。

平成18年3月

奈良県立教育研究所
所長 井上 喜一

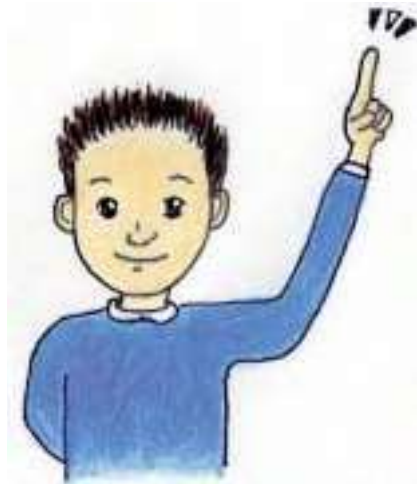
も く じ



はじめに

★子どものすがたから学ぼう 自閉症の理解（井上雅彦）	2
★子ども一人一人の育ちを大切にしよう	
1 くつ箱はどこ？	14
2 くつをはきましょう	15
3 おはよう表	16
4 朝の用意ができたよ	17
5 今日は何をやるのかな	18
6 みんなで遊べるスペースと一人のスペース	20
7 みんなでペープサート	22
8 みんなで遊んだよね	24
9 負けるのいやだ	26
10 予定が変わったよ	28
11 手洗い1・2・3	30
12 手洗いワンプッシュ	32
13 ごちそうさまの時間は？	34
14 ひも結びにチャレンジ	36
15 がんばり表	37
16 じょうずに座れたよ	38
★サポートシステムを整えよう	
1 先生へのお願い（井上雅彦）	41
2 システムづくりの第一歩	46
★「ありのままを生きる」（浜田寿美男）	52

おわりに



自閉症の理解

自閉症の理解

診断名を手がかりに

自閉症と広汎性発達障害はほとんどイコールで使われることが多くなっていますが、広汎性発達障害というのは自閉症の上位の概念で、アスペルガー症候群や特定不能の広汎性発達障害も、その下位に入っています。

教育分野の我々は診断名を付けるという立場にありませんから、診断が付いてくる場合には、それを手がかりにしてどんな子どもなのかを知ることになります。

例えば診断名のところに、高機能自閉症、高機能広汎性発達障害、高機能自閉症スペクトラム障害、自閉症、自閉的傾向、PDDや、特定不能の広汎性発達障害（PDDNOS；自閉症の特徴をすべて併せ持っていないけれど、自閉症のいくつかの特徴をもつ非定型自閉症ともいう）といった診断名があります。

ASはアスペルガー症候群の略称です。

高機能とは、知的障害がないということを表しています。

これらの診断名が付けば自閉症の典型的な特徴をもっているか、自閉症の特徴のいくつかをもっている、自閉圏にある子どもだと理解します。

これらの診断名は医学領域においても、統一されずに使われているのが現状です。

自閉症の症状

自閉症の3症状というのは、「対人関係や社会性の問題」、「コミュニケーションの質的な障害」、「こだわり（イマジネーションの障害）」、これらの3つの症状が全部診断基準を満たした場合自閉症と診断されます。

自閉症かどうかの診断基準として、日本でよく使われるのは、アメリカ精神医学会の診断基準とWHO（世界保健機構）の診断基準です。

医師（児童精神科医や小児精神科医）はそれに該当するかどうかを保護者からの聞き取りなどによって判断します。従って脳波をとったとか、CTスキャンとかMRIをとったから自閉症が分かるわけではありません。

逆に難しいのは、ある病院にいて、CTスキャンやMRI、脳波をとりました、その結果、「異常なし」というふうにお医者さんから聞いて、うちの子は障害ではないと思っておられる保護者も多いことなんです。

仮に脳波やMRI、CTスキャンの所見に異常がなくても保護者からの聞き取りと現在の子どもさんの症状によって自閉症は診断されません。

自閉症の原因

自閉症の原因は、脳の中樞神経の機能障害で、保護者の育て方の問題ではないのです。

まだすべての自閉症に共通な疾患部位というのは医学的にも分かっていません。脳の中にある海馬であるとか前頭葉連合野であるとか扁桃腺であるなどいろいろといわれています。

しかし、現在この部位の未発達の原因でこういう症状が起こるといった決定的な要因がつかめていないというのが現状です。

有病率は、医学的な所見では、0.6%以上ともいわれています。最近では70%以上が知的障害を有しない自閉症であるともいわれていて、1対4で男子が多いようです。

応用行動分析（ABA）に基づくアプローチやTEACCHなど自閉症に有効なアプローチにはいろいろなものがあります。

一人一人にあった適切な教育が大切です

発達障害のある子どもにとって教育が一番大切です。早期からその子にあった支援や療育を継続し、コミュニケーションや社会的ルールを学んでいくことで、こだわりや多動や注意集中のしにくさ、対人関係など、かなりの部分が改善されていきます。

このことは、世界的に多くの研究からも明らかになっていて、環境調整や教育によって障害を軽減したり適応状態をよくしたりすることができるのです。

年齢相応の友達関係を築きにくい

みんなで
遊べる
スペース

P 2 0

孤立していて集団に入れない場合



- ・まずは大人が媒介となり遊びを展開し、そこへ仲間を呼び込む
- ・かかわりやすい友人関係からはじめる
 - 下学年の子の世話などは得意な場合がある
 - 大人とはかかわれる場合、それでもOK！
 - おとなしいタイプの子や興味を共有できる子、批判的でない子、興味を共有できるグループから
- ・発達、成長するとかかわり方も変化し、積極性が新たなトラブルになる場合もあるので友人関係のルールを教える

周囲に配慮せず自分中心の行動をしてしまう

指示が理解できていない場合



- ・「個別に」「注意を引いて」「具体的に」伝えること
- ・一度にたくさんの指示が入らないこともある
- ・要求水準を下げてみる
- ・絵や文字にして視覚的に伝える

好きなことをやめるのが苦手な場合



- ・事前の約束(タイマーなど)を使う
- ・守れたらほめる

ごちそう
さまの
時間は



P 3 4

言われたことを場面に応じて理解するのが難しい



- ・社会的な文脈の(場面に応じた)理解を支援する
コミック会話などで文脈を具体的に文章や絵にして伝える
- ・社会的なふるまい方をルールとして学習する
ソーシャル・スキル・トレーニング (SST)
- ・分かりやすく具体的に個別指示する

要求があるときだけ自分から人にかかわる



- ・「〇くんに～と言ってきて」など、
間接的にかかわりを促す、役割交代、
順番待ちなどの社会的スキルを学ぶ

自閉症のコミュニケーションの発達は、要求
→叙述の順をとることが多いのです



難しい言葉を使うが、その意味をよく分かっていない



- ・ その子の言葉の理解度について家族や教師が共通理解をする
- ・ 適切な言い方をルールとして教える

大勢の中での会話では、誰が誰に話しているのかが分からない



- ・ 誰に話しているのか明確にする
「みんなで～します」
「〇くんは～します」
- ・ 個別指示を取り入れる

自分ではないのに
自分が怒られている
と思ってしまうこと
もあるようです。



どのように、なぜ、といった説明ができない



- ・ 順序立てて聞く
- ・ 絵にしたり、紙に書きながら聞く

みんなで
遊んだよね



P 2 4

冗談や皮肉が分からず、文字通り受け取る



- ・ あいまいな表現や比喻を避ける
- ・ しかるときにも表情に気を付ける

「そんなことをする子は、もうこなくていい」と言われると、本当にこなくていいと思ってしまうことがあります

相手が嫌がることをわざと執拗に繰り返す



- ・ 不適切な行動は無視し、代替りの行動を提示する
- ・ 適切なかかわり方や話題のふり方を教える

先生や友達とかかわりたいけれど、話題がみつからなかったり、かかわり方が分からないようです



普段通りの状況や手順が急に変わると、混乱する



- ・ 予定を視覚的に示す
- ・ 変更も視覚的に示す
- ・ 約束をやたらと変更しない

今日は何をするのかな



P 18

特定のテーマに関する知識獲得に没頭する

みんなで
ペーパーサート

P 2 2



- ・ その遊びよりも楽しい遊びを提示する
- ・ 好きなことを学習にうまく取り入れる

字を書くのは嫌いで、電車や車の名前すら覚えてくることがあります

ビデオの特定場面を繰り返し見て次の場面に移動できない



- ・ 適切な活動に置き換える
- ・ 興味のある遊びを増やす
- ・ 活動を始める前に、タイマー等で、どれくらいしたら、次に何をするか伝えておく

ビデオから絵本のよなものをつくり、それを持たせることで移動できるようになることがあります



全身や身体の一部を、同じパターンで動かし続けることがある



- ・ 本人にとっての暇つぶしや不安定さの解消の場合もある
- ・ ほかの遊びを教える
- ・ 今、何をすべきかを伝える

何かにつけ自分が一番でないと気がすまない



- ・ 代わりとなる行動を見つける
- ・ その子にあった、適切な気持ちの
落ち着け方を見つけ、ロールプレ
イなどで練習する

負けるの
いやだ

P 2 6

過去の嫌なことを思い出して、不安になる



- ・ 安心な環境で成功体験を積み重ねる

がんばり表

P 3 7



「大丈夫」という言葉
だけでなく、実際に
少しずつ苦手な環
境で、楽しい体験を
することで、がんば
ることができます

身体に触れられることを嫌がる



- ・ 刺激に対して過敏性がある場合は、急に接近したり触
ったりしない
- ・ ハイタッチや握手、平均台やバランスボードで手を握
るなど無理なく遊びの中で対人的接触を楽しめるよう
にして、少しずつ慣らす

偏食が激しく、食べ物のレパートリーが極端に狭い



- ・調理方法を工夫し、少しずつ挑戦させて、食べることができたらほめる
- ・場所や環境によって食べられることもあるので、食べる位置などを考えてみる

無理矢理食べさせると拒否がひどくなる場合もあります



特定の音を嫌がる



- ・嫌いな楽器の音、動物の鳴き声、運動会のピストルの音など環境調整によって工夫する
- ・好きな活動を入れることで、感じ方がおだやかになる場合もある

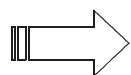
楽器を変えたり、運動会のピストルを旗に変えたりしてみます





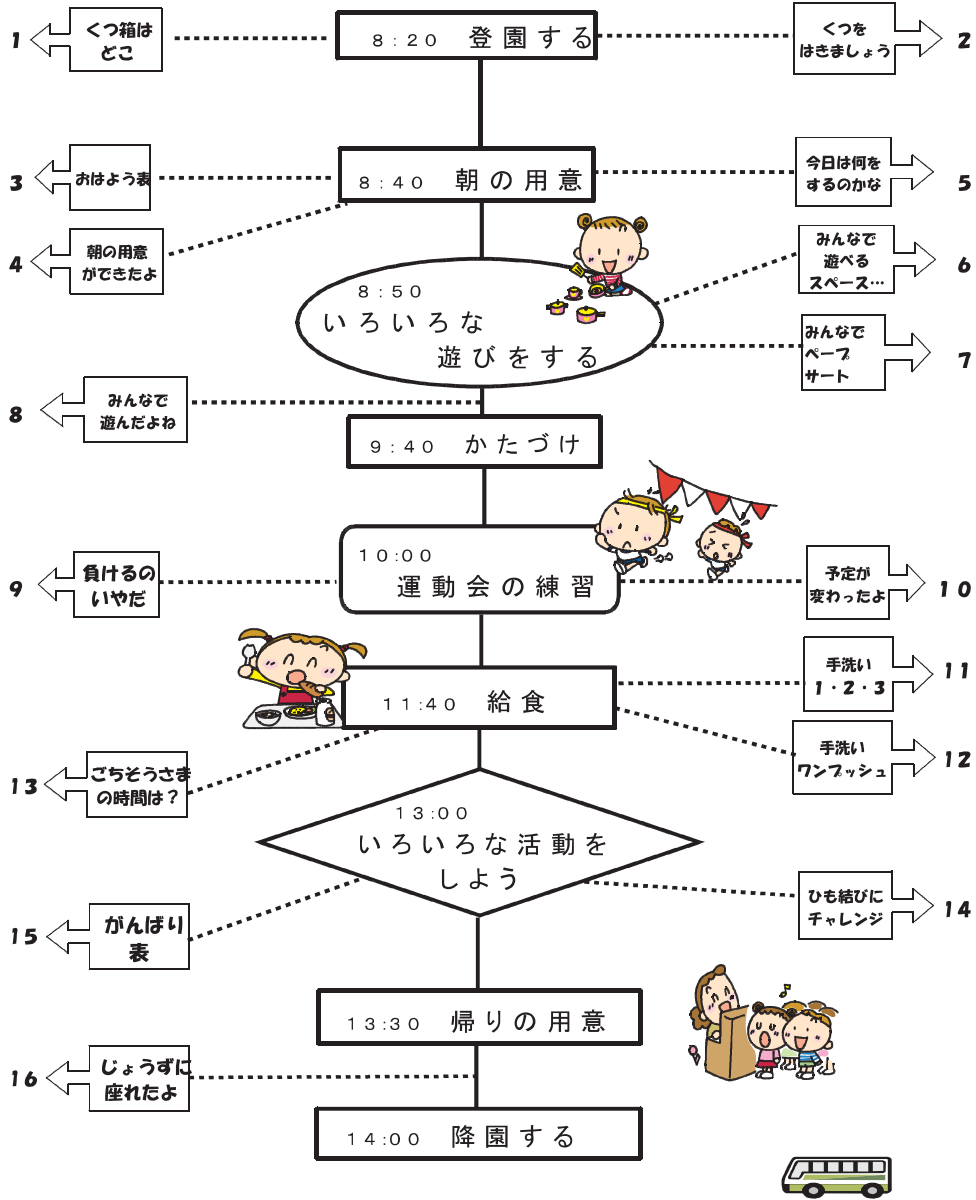
1 実践と担任のコメント

2 解説集



特性の理解と対応の解説をしています

【園での生活】



1 くつ箱はどこ？

- くつ箱にはうわぐつと同じマークを付けたり、色で示すようにし、探しやすいように工夫しましょう。



【マークと名前が貼ってあるくつ箱】



担任のコメント

初めは、自分のくつ箱がどこなのか、うまく探せなかった子どもも、マークや色を付けるとすぐに分かるようになりました。



2 くつをはきましよう

- うわぐつには、子どもの好きなマークを付けましよう。
- 左右そろえたときに合うようなマークで練習ましよう。



【左右の模様の付いたうわぐつ】



担任のコメント

好きな模様を付けると自分のうわぐつが分かりやすくなりました。

マークを付けて左右の練習をすることによって、間違いが少なくなりました。



3 おはよう表

- カードを裏返すことにより、あいさつのきっかけになったり、友達のだれが来ているのかが分かったりします。
- カードには友だちの写真が貼ってあります。



【おはよう表】



担任のコメント

友達のだれが来ているのかが分かりやすくなり、話をしながら、楽しそうに裏返していました。

お帰りのときにも、まだ返していない友達を呼んで、かかわることが多くなりました。



4 朝の用意ができたよ

ー見通しがもちにくいときー

- 「コップ・タオルかけ」「着替え」「カバンを片づける」ができたら、朝の用意のボードにそのカードを入れる。



【朝の用意のボード】



担任のコメント

朝登園したら、着替えをする、コップやタオルをかける、カバンをなおすなどいろいろな用意をします。

朝の用意が一つずつ終わったら、カードを入れるということを終了の合図にしました。

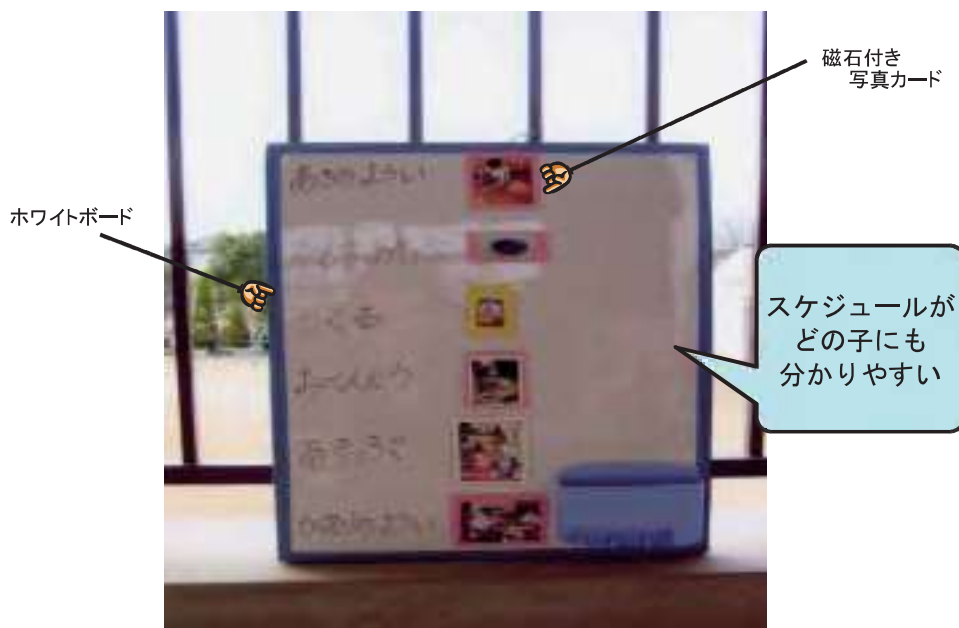
カードを入れることが楽しみになり、用意もできるようになりました。



5 今日は何をするのかな

—視覚支援で理解する—

○今日の保育の予定を写真カードや絵カードで示すと…

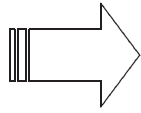


【スケジュール表】

担任のコメント

今日の保育の予定を伝えるとき、言葉と一緒に、写真カードや絵カードを添えて、順番を提示すると、クラスのみんなが、今日の予定を理解しやすくなりました。





視覚支援を上手に使おう！

- ◇ 絵や写真を使って、カードを作ってみたのですが、うまくいかないということをよく聞きます。

次のようなことが起きていないか確認しましょう。

- ①言葉とカードが合っていますか。
- ②みんな同じようなタイミングで提示していますか。
- ③保護者との連携はできていますか。

- ◇ カードはものを表現しているだけではなく、実は言葉を省略しているところがあります。

例えば、はさみのカードを見せて、「これ（はさみ）取ってきて」と伝えても、はさみのカードを指さしてしまう。

- ・「これ」の意味が分からない。
- ・「取ってきて」が理解できていない。

絵でも写真でもカードでも言葉でも、その意味や使い方を子どもと共有することが大切です。

6 みんなで遊べるスペース と一人のスペース

- 子ども同士自然に仲良くなれるスペースをつくる。
- 一人になりたいときのスペースをつくる。



【保育室内に設けたリラックススペース】

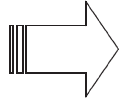


担任のコメント

保育室にリラックススペースを設けたことで、子ども同士が互いに話しかけたり、ふれあいを求めたりするきっかけが多くなりました。

また一人になりたいときは、カーテンを閉めてすごし、友達が気になると、そっとカーテンを開けて様子をうかがったりしていました。





社会参加のしかたのタイプはいろいろ

- ◇ 集団から離れて、一人で行動することが落ち着くタイプ
あまり集団の輪に入れることを強要せずに、気の合う友達を一人つくるように支援しましょう。
- ◇ 指示がないと不安になるタイプ
「大丈夫よ」というあいまいな言葉かけより、スケジュール表や作業の手順表などで、見通しがもてるようにしましょう。
- ◇ お話大好き、でも自分の思いを一方向的に話すタイプ
劇あそびやペープサートで会話の技術を練習しましょう。
- ◇ 几帳面で堅苦しい言い方が好きなタイプ
得意なことや興味のあることをみんなに発表させるなど、長所としてのばしましょう。



7 みんなでペープサート

○いつでも、だれでも使えるペープサート台をつくりました。



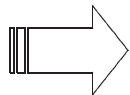
【ペープサート台】



担任のコメント

ひとり遊びが好きで、ひとりでお家のコーナーに入っていましたが、この台をつくってからは、遊びの場面で作ったペープサートなどを使いながら友達とかかわりがもてるようになりました。





ソーシャルスキルを高める

- ◇ 場面に応じた話をするのが難しい子どもがいます。

場面に応じて融通を利かせることが苦手、冗談が通じない、敬語の使い分けができないときがあります。

そんなとき

- ①一つ一つ場面に応じて、言い方や態度を教えましょう。
- ②はじめて会う人への話し方と友達への話し方は違うことなど、ていねいに教えてあげてください。

- ◇ 独り言をぶつぶつ言う、少し変わった話し方をする子どもがいます。

そんなとき

- ①やめることはできないので、理解して大目に見てあげることも大切です。
- ②子ども同士の話に大人が入って、コーディネーター役をすることで、うまくいく場合があります。

いろいろな子どもがいてこそ毎日が楽しいのです。

8 みんなで遊んだよね

○自由あそびの後に、みんなで話合いをするとき、子ども一人一人の言ったことを簡単に描いてみましょう。



【遊びの絵】

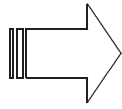


担任のコメント

朝の自由遊びで発見したことや楽しかったことをクラス全体で話し合うときに、その様子を即興で描いた絵です。

絵にすることでイメージしやすくなり、発表したり、友達の遊びにも目を向けられるようになり、次の日の遊びにつなげていくことができました。





保育中の先生の話を見視覚化する

【兵庫教育大学 井上雅彦先生の2005.09.01のブログより】

奈良県立教育研究所の事例発表での幼稚園の先生の実践です

◇ 「今日はどんなことをしたのかな？」と問いかける話合い場面。

話合い場面での理解が難しい子どもたちは、とたんにざわざわしはじめる。

こんなときの一つのアイデアがこれ。(となりのページの絵)

子どもたちから出された意見を先生が模造紙に描きながら話を進めていくという視覚支援。

以前、全校朝礼などの話のときにパワーポイントで関連する絵や画像を同時に提示するというアイデアは聞いたことがあるけれど、これは瞬時に手描きするものだ。

それなりのお絵かきテクが必要だが、個人的にはこんなローテクが好き。分かりにくい絵に子どもたちがつっこみを入れてくれるのも楽しそうだ。

保育を受けている全員が楽しくなる

特別支援教育ってすばらしい！

9 負けるのいやだ

○勝ちたい気持ちが強く、リレーや競争に参加しにくい子どもがいます。



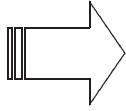
【運動会のリレーで抜かれてしまったときの様子を描いた絵】



担任のコメント

抜かれたときにどんな気持ちになるのか、どうすればよいのかということを見ながら一緒に考えました。少し見通しがもてたのか、リレーにスムーズに参加することができました。





勝ち負けにこだわる

◇ ゲームで勝ち負けにこだわり、みんなで活動することが難しくなることがあります。

①「勝つこともあれば負けることもある」ということを紙芝居のようなもので教えましょう。

②負けたとき、嫌な気分になったときに、その気持ちをどうおさめるのかということゲームの前にこちらが先に提示して本人に選ばせてみましょう。

- ・ 子どもが小さいときには好きな先生にぎゅーっと抱きしめてもらう。
- ・ 「くやしいー」と叫ぶ。
- ・ 運動場を全速力で走る。
- ・ ぬいぐるみを抱きしめる。
- ・ お守りを握りしめる。
- ・ 負けたときのロールプレイングをしておく。
など

わざと勝ちを譲ったり、ゲームに参加させないという罰を与えたりしないで、参加させながら負けたときの態度を知らせましょう。